

長野県川上村

写真は日本経済新聞 2017 年 3 月 20 日朝刊の特集から。「外国人比率が高い自治体」をみて、正直なところ驚いた。長野県川上村がトップだったからだ。

川上村には 20 年ほど前、宮本憲一先生ご夫妻らと調査に出かけた。一面に広がるレタス畑が忘れられない。調査の報告は『地域経営と内発的発展』農文協、1998 年のなかで『『高原野菜の村』の経済自立プロセスと自治体経営』として書かせてもらった。

		外国人比率	財政力指数	1人あたり課税所得	生産年齢人口	老年人口
	(全国平均)	1.4%	0.50	328.8万円	61.5%	25.6%
1	長野県川上村	15.8	0.23	336.2	58.4	29.2
2	群馬県大泉町	14.6	1.09	275.7	66.4	20.1
3	長野県南牧村	12.6	0.27	354.4	57.5	29.9
4	東京都新宿区	9.1	0.62	500.6	71.4	20.0
5	東京都豊島区	7.7	0.53	424.8	70.9	20.4
6	東京都港区	7.0	1.17	1023.2	70.4	17.4
7	東京都台東区	7.0	0.44	404.1	67.0	23.8
8	東京都荒川区	6.9	0.32	355.2	65.3	23.2
9	岐阜県美濃加茂市	6.4	0.76	294.4	62.7	21.5
10	岐阜県坂祝町	6.0	0.59	280.3	64.3	22.8

(注)外国人比率=2015年国勢調査、財政力指数=15年度、1人あたり課税所得=15年度、市町村民税ベース。生産年齢、老年人口=15年1月1日時点住民基本台帳

その後も、川上村については「地域政策論」の講義などでも、映像を含めて紹介してきた。当時は、学生をはじめ、日本の若者が収穫期にアルバイトに出かけていた。今回、外国人比率が最高の自治体であると初めて知った。記事のなかの川上村のところを書き出してみよう。

外国人比率が高い市区町村の事情は一様でない。2015 年の国勢調査によると、比率が最も高いのは長野県川上村 (15.8%)。冷涼な気候を生かしたレタス生産日本で知られ、今月からハウスに種をまく作業が始まった。

6～10 月の収穫期には、各農家が午前 2 時ごろから家族総出で収穫作業にあたり、首都圏などへ即日配送する。短期間に多くの労働力を必要とするが、近年は学生アルバイトの確保が難しくなった。そこで 04 年から受け入れているのが技能実習生だ。昨年は 935 人。最多はフィリピン人の 300 人超で、ベトナム人、中国人と続く。

実習生は農家が敷地内に建てた宿舎などで自炊し、農家側も一緒に食事する機会を設けてコミュニケーションづくりを心がけている。大企業がないため村の財政力指数は低い、農家約 560 戸の昨年の売上高は約 200 億円。1 人当たり課税所得も 336 万円と全国平均を上回る豊かな村で、「レタス御殿」も目立つ。

昨年からはベトナムの大学生をインターンとして招く技術指導にも乗り出した。将来は農閑期にベトナムに指導に出かける案も浮上しており「交流を進め良い循環をつくりたい」(同村) という。

(2017 年 11 月 28 日)